畑作技術情報

発行　令和５年６月８日
第　４　号
たいせつ農業協同組合
営農部　農産販売課
本所　営農センター　57-2357
支所　営農センター　87-4111

秋まき小麦の生育は６月１日時点で平年より１日早い生育となっております。ほ場の状態をこまめに確認し、作業を行いましょう。

赤かび病の防除について

＜赤かび病＞

赤カビ病は小麦で最も重要な病害となり、出穂・開花期以降の降雨、曇天時に多発します。**赤カビ病が発生しカビ毒（DON）濃度が 1.1ｐｐｍを超えた場合検査等級が規格外となります**ので、開花状況を確認し開花始めに防除を実施しましょう。（図１、表１参照）。

図１

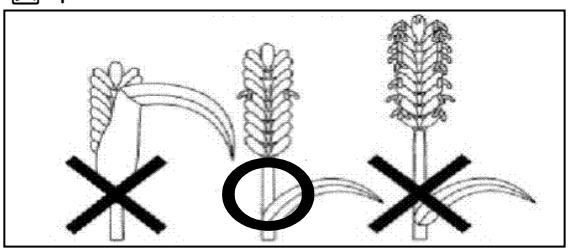

表１　赤かび病参考防除歴

	生育ステージ	薬剤名	系統名	病害・希釈倍率 赤かび病	10a 当り 薬量	回 数
１回目	開花始め	シルバキュアＦＬ	DMI	2,000	50ml	2
２回目	前回から７日後	ベフトップジンＦＬ	他合成・ﾍﾞﾝｿﾞｲﾐﾀﾞｿﾞｰﾙ	1,000	100ml	1
３回目※	前回から７日後	シルバキュアＦＬ	DMI	2,000	50ml	2

※３回目の防除は春まき小麦の方は実施しましょう。（秋まき小麦は２回目まで）

秋・春小麦の害虫防除について

＜アブラムシ類＞

秋まき小麦の出穂期以降は、アブラムシ類の防除時期となります。１穂当り７～１１頭寄生すると減収し品質も低下します。出穂期（秋小麦：６月上旬頃、春小麦：６月下旬頃）から１０～２０日後に寄生密度が高まるので、よくほ場を観察し、確認した後に防除をしましょう。

対象害虫	薬剤名	希釈倍率	使用基準
アブラムシ類	トレボン乳剤	2,000倍 （50ml/10a）	収穫14日前まで/2回以内
	エルサン乳剤	1,000倍 （100ｍｌ/10a）	収穫7日前まで/4回以内

～農作業事故・農薬のドリフトへ細心の注意を払いましょう～